



堀場製作所OB会

# 会報

通巻35号

発行日 平成26年1月31日

発行者 堀場製作所OB会

酒井 俊英

編集者 酒井 俊英

## ◆第18期年次総会

- ・講話 堀場最高顧問
- ・近況報告 堀場社長
- ・年次総会
- ・懇親会

## ◆定例幹事会

- ・第18期第1回幹事会
- ・東京支部第18期第1回幹事会

## ◆ボランティア部会

- ・鴨川を美しくする会
- ・鴨川クリーンハイク

## ◆キャリア部会

- ・京モノレンジャー
- ・K S V U  
(京都シニアベンチャークラブ連合会)
- ・京モノレンジャー感謝状贈呈式

## ◆クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・カメラクラブ
- ・グランドゴルフクラブ
- ・東京支部ゴルフクラブ

## ◆OB会行事報告

- ・夏の懇親会
- ・レジャー例会

## ◆東京支部活動

- ・堀場社長との懇談会

## ◆会員寄稿文

- ・代表幹事を振り返って……………川越 幹
- ・我家のダメ亭主……………梶並 強平
- ・京都の知ってるつもり……………海野 興一郎
- ・韓国旅行……………笠川 重美
- ・ドイツでの生活体験紹介……………野口 進二

## ◆OB会だより

- ・堀場OB会ホームページ紹介
- ・新入会員紹介
- ・年間行事計画について
- ・会報、ホームページへの寄稿について
- ・OB会入会手続きについて

## ◆ホリバニュース・やぶにらみアラカルト

## ◆編集後記



### 藤森神社の珍しい逆午の絵馬

京都深草の里に平安遷都以前よりある古社で、朝廷から武士・庶民にいたるまで崇敬の厚い神社です。毎年5月5日の藤森祭は菖蒲の節句発祥の祭とされています。菖蒲は「勝負」に通じるので、勝運を呼ぶ神として信仰を集め、藤森祭の駟馬神事は馬の神事として信仰され馬主・騎手・競馬ファンの祭典が毎年行われ多くの人々の参拝があります。写真の馬は逆でウマ→マウ（舞う）の意味を表しています。OB会も今年は勝ちましょう。（川越 幹 記）

皆さん、こんにちは。皆さんの元気な姿を見たかったし、私の元気な姿も見て頂きたかったです。私は後1年で90才になりますが、ますます元気で、当分葬式の心配も要らないので、お香典の用意はして頂かなくても大丈夫です。（笑）

今日は皆さんの前で何の話をしてしようかと思って調べ物をしている時におもしろい遺伝子が有るのを見つけました。新奇性追求遺伝子。これについて、色々文献が有り、1996年に発表されているのですが、ついこの間、こう云うのが有るのを知りました。もし、これが発表された時に知っていたら私としては随分生き方を変えていたと思うんですが、15年も放っておいたと言う事は大変残念な事です。どういうことかと言いますと、アングロサクソンと日本人の基本的な性格の差が遺伝子で明確になっていると言うことなんです。皆さんがおもしろいとか、すごいなと思った時に、神経伝達物質（アドレナリンとか、セレトニンとか）色んな物質が出ます。それがに受容体に行って反応を起こします。新奇性追求遺伝子と言うのは受け取る側の遺伝子です。アングロサクソン場合も日本人の場合も問題が起こった時に神経伝達物質の出方は、あまり差がないのですが、受け取る側がひどく違う。すごいなと思った時にアングロサクソンは100人中50人、即ち50%の人が何か反応する。其れに比べて日本人は100人中2人、僅か2%しか反応しない。例えると、ピッチャーとキャッチャーがいて、ピッチャーがボールを投げた時にどんな暴投であろうが、取ろうとするのはアングロサクソンは50人にもかかわらず、日本人は2人しかない。ミットを出してストライクでミットに入ったら捕まえようと言うのが日本人で2



0人、アングロサクソンでは2人。残りのアングロサクソンの48%、日本人の78%はミットが届く範囲で受けようかということなんです。何が何でも取ろうとするのが、アングロサクソンと日本人の比は25対1です。これは何故かという、元々アングロサクソンは狩猟民族であり、おいしそうな鹿が来たら、それをその時に何とかして取らないといけない訳で、明日そこに鹿が来る保証はない。このこと思った時に行動する必要があるんです。日本人は農耕民族で、苗を植えて、水を張って、草を取ったりして、何ヶ月も経って初めて収穫する。農耕民族は飛び上がって取らなくても明日でもいいんです。農耕民族は当然そういう長い状態で暮らしてきたから、直ちにアクションを起こさなくても良い。狩猟民族は本質的に、やれる時にやっとなかないといけない訳です。ただ、この事をもっと早くに知っていれば良かったと思うのは、欧米でベンチャービジネスがたくさん起きている。日本でもベンチャービジネスが起こるようにしたいと色々努力してきた。昭和53年に始めて、今まで35年。今年もやっている。日本は目の前に美味しいものが有っても慎重審議して、食べてみて美味しかったら良いし、まあ下痢しても命まで取られまいと考える勇気のある人は日本ではなかなか少ない。鐘や太鼓を叩いて経産省もずいぶん金を使ってベンチャービジネスの振興をしました。

---

今年文科省が補正予算で1800億の金を出して京都大学、東京大学、大阪大学、東北大学に1200億、JSTに600億円出して大学のシーズを基にベンチャービジネスを起こそうとしたら其れに対して出資するという予算を出した。これはもう各大学の預金に入っていて、ベンチャーキャピタルの人も投資する先が無い。どこか無いやろかと相談を受けるのですが、投資するというのは出資するんですから、事業がダメになれば勿論ゼロになる。或いは駄目にならなくても利益が出なければ一銭の配当も無いし、株価もどんどん下がっていくので、これは非常にリスクなんです。なかなかリスクを取らない。ベンチャーをやったから必ず成功するなんて有り得ない、成功する人が少ないからベンチャーと言うんです。冒険というのは危険で失敗する人が多いから冒険と言うのであって皆が成功するのであれば冒険じゃない。例えば皆で大文字に登ろうかというのは冒険ではないですけど、エベレストに登ろうかというのは冒険ですよ。日本人はだいたいせいぜい大文字山とか、將軍塚ぐらいならいいけど、比叡山やったらちよつと考えよか、言わんや富士山になったらなかなかしんどいよと言うことで、それは新奇性追求遺伝子のなせる技なんです。けしからんというのではなく、日本人としては生まれた時に、すぐに飛びついてボールを捕らえるのではない。どうしてもアングロサクソンの方に成功する確率が多い。ただ、それで日本人が駄目になるかというところ、そういう訳ではない。というのはもう一つの生物の特徴が有り、高級動物程、親からの遺伝の縛りが少ない。一番単純な生物と言えばアメーバですが、これは単細胞で、分裂したら親と全く100%同じものが分裂して出来る。もうちよつと高級になってきて、例えばサラブレッドはお爺さん、お婆さん、お父さん、お母さんが由緒正しい馬だったら、これから生まれてくる子供の値段はある程度付く

訳です。それから、猟犬のポインター、セッターなどは血統書で売買しています。子供に能力が有るか無いか解らないけども親が確かなら子供も絶対そういう能力が有る。昨年でしたか、競馬の種付が一番高い馬は一千万円、生まれてくる馬が99%競馬に良い馬になる保証があるから払うんでしょ。しかし人間はどうですか。例えばノーベル賞を貰った人の子を産みたいと言って金を払うから子供を産ましてくれと言う人は誰もいない。ノーベル賞を取った人の息子や娘がノーベル賞を取る保証は無い。両親が頭が良くても、必ずしも、頭の良いのが生まれる訳でもない。私も良く結婚式に行くんですが、必ずや仲人さんがこの新郎のお爺さんがこうで、お婆さんがこうで、お父さんがこうで、お母さんがこうで、こんなに素晴らしい方々ですから、この息子さんもきっと素晴らしいですよと言うんですね。それで、僕に祝辞の順番が回って来た時に、「生物学的に言うと大変特異な例でして、だいたい親に似ないのが高級動物です」と言いますと、「何やら褒められているのか、腐されているのか、お前は低級動物やと言われていたのかどちらですか？」と、後で聞かれる。事ほど左様に、人間が正直言っても、親が良いから、良いとか、親が悪いから悪いとは言えない。これは神さんがそうしたんですね。何でか分かります？ 自分の親を見て、親が呑んでくれて、飲む・打つ・買うの親やったら、自分もどんだけ努力しても親父と同じになると解ってたら、どうします。まいます。親がどんな悪くても自分が努力することで、偉くもなるし、親が偉くても人間が勉強せなあかんと言うことが解っているからみんな努力しているんです。だから神さんが人間は親にそっくりに似させないようにしたのはそういう理由だと思っんです。人間は半分は親、半分は後天的に、変わる訳です。何が大事かと言うと、家庭、社会全体の環境、学校の教育と、この3つがそう

いう価値観でないと、その国の人々の平均的性格は良い方向に行かない。そうしてみると日本は元々ベンチャラスナリスキーな事はやらない。社会全体がそうなんです。大企業に行ったほうが良いという考えが多い。そんな中で当初は無名で、ベンチャラスだった堀場に来てくれたのは2%の人です。希少価値があったんですが、堀場もだんだん大きくなって来て、最近来る人は安定企業と思ってくるようです。誕生会で、新入社員に、何か欲しいもん有るかと聞いているけど、この間までは、スポーツカーとか、パソコンとか言っていたが、最近聞いてみると、10人が10人ともすぐ答えない。何年か堀場で働いたら有給休暇が貰えるので、ゆっくり旅行がしたいとか言うもんだから、定年前のおっさんみたいな事をいうなど言っているんです。また新人の女の子から堀場製作所の男性の採用基準はどうなってんのかと聞かれました。新人研修の打ち上げ会に誘ったら男性は20%しか参加しない。そんなところへ行って飲過ぎたら何が起こるか分からんから、と女が言うような事を言っている。我社もだんだん女の世界に入ります。女の方が多くなって、マネージャー、役員、社長も女性になるかもしれません。日本人も男が元気が無くなって、恐ろしい世界なっていくかもしれません。まあ、皆さんも孫がいる世代ですが、幾つになっても新しい事に好奇心を持って、先頭に立ってやろうと言う気持ちが無かったら人生が面白

くないと思います。最終的には人間は幸福を追求しているわけですが、幸福とは何かですが、単純には人間には五欲が有ります。食欲、性欲、物欲、名誉欲、征服欲ですが、五欲を満たした後は、自分がやった仕事で多くの人が感謝してくれたらハッピーです。

そして、自分の自由の時間を持つというのは最高にハッピーな事です。世界は自由を求めて革命が起きたけど、日本は思想的に押さえつけられる事も無いし、革命を起こさなければならぬような締め付けが少なかった。日本人は自由だったんですね。戦中や、戦後の早々には、パニックになったのが2つ有ります。本当に食べる物が無い、死にたくないのに死にそうになる。無駄死にはしたくない。爆撃されて、死にたくなくても死ぬかもしれないと思ったらパニックになります。今でも時々夢を見ます。もう一つ、今晚食べるものが無いと言うのはパニックです。其れ以外は人間は凌げます。比較的最近、婦人会の人が、環境の話をしてくれと言うので、講演している中で、戦争の話になって、死ぬことの怖さ、食べるものが無くなった話をした。講演を終えて、コーヒーの時間になった時に、世話係のご婦人が、「夜中に食べるものが無いと言うのは、その頃24時間営業のコンビニが無かったんですね。冷蔵庫開けても食べる物がなくて、買いに行ってもコンビニが開いてなかったんですね」と言う。そんな事と違うんやと言ってもキョトンとしている。全く白けてしまった。癪に障って、その話を会社の秘書に話しても、おばさんと同じで、今夜食べるものが無いと言うことが理解されない。世界を見ると、食べ物が無くて人口の何割かは死んでいく所がある。難民支援とかで、ボランティアで世界に行っている医者に聞くと世界全体で生まれてきた子供の何割かは栄養失調が原因の病気で死ぬ。



そういう所では、薬を持って行っても使う場が無い。薬を使う以前の問題で死んでいく。結局、薬は役に立たなくて、お米か、パンや、ミルクが役に立つ様です。それから考えると、日本に生まれたことはハッピーなんですね。どうぞ、感謝の気持ちを持って世の中の役に立つて欲しい。

最後に、最近聞いて、おもしろいと思った話なんですが、或る銀行の頭取の話ですが、会社の状態を見るのに決算書では差がない場合、どちらが良いかを選ぶのに、OBが元氣

澆漑としているかどうか、その会社のOBを見たら良いと言う話があった。OB会が無かったり、ばらばらになったりしている会社は良くない。これからも当社も社債発行や融資などもやりたいのでOB会は元氣でやって頂きたい。そうでないと我社も金融の道を絶たれる事になる。OB会が元氣だったら銀行の融資も問題ない。そういう意味でもOB会は元氣でやって欲しい。

御静聴ありがとうございました。

(抄録)

### 第3部 近況報告 堀場社長

皆さん、こんにちは。懐かしい顔と言っては失礼ですけど、皆さんお元氣そうで、こうしてお会いできるのを楽しみにしています。近況ですが、毎日状況が変化していると言うのが正直な所です。昨日も記者発表したんですが、今日は株価が少し下がっています。我々に対する期待度が大きいので、我々は一度も嘘をついたことはないのですが、一時期、ストップ安になったり、株価は周りの環境で影響を受けます。先ずは大丈夫ですということをおきたいです。

今年もH I S Mを滋賀県のロイヤルホテルオークでやりました。今回、国内55社62名、海外15社16名、合計70社78名の参加でした。日製産業から独占販売権を回収してから、H I S Mに力を入れてきましたが、やはりマンネリ化して来ていました。今回カミナリを落として何のために日製産業から販売権を取り戻したのか、スピリットが生きていない。チャレンジングで、独創的にやるのが堀場らしさだ。と言うことで、今回販社の足切りを行ないました。古くからの社長も切っています。それにより、緊張感が出来てきました。我々からも提案し、相手からも真剣な提案が有ったりして、効果が有り、例年以上に盛り上がりました。J1に残った安心感と、各分野別の討議をしたり、現場への



指導を行って活性化する事など提案がありました。やはり変革して行くことが大事です。連結での売上高1300億円、従業員数が5800人。国内2500人、海外社員の数が3000人から3300人に増えてます。インド人、ブラジル人など所謂BRICSが加わったのですが、中国人が増えて、300人になっていて重要な市場になっています。HORIBA全体の現状としては、開発拠点が17箇所7カ国、生産拠点が27箇所11カ国、販売が直接オペレーションしている所だけで76箇所27カ国です。堀場自体がこういったネットワークを持っている事自体が付加価値になっています。ABX、Jobin Yvon、Schenck等、彼らが堀場グループに入ってくるのは本当にロイヤリティーの高い状態で我々のグループに入ってきている。それは単にマネージメントや資金だけの事ではなく、堀場が持っている財産、即ちネットワークの

---

価値を彼らは魅力を感じて傘下に入ってきている。実際、6年前になりますが、Schenckという自動車の試験装置の会社、我々と永年30年組んできた会社ですが、買収した時に、我々はHORIBA-Schenck社という名前を薦めたんですが、彼らはHORIBA Automotive Systemにしたんです。我々がHORIBA Automotive System と言っても、Schenckを残してくれと言うのが普通なんですけど、むしろ逆だったんです。彼らはHORIBAブランドで自分たちの商売をしたい。Schenckのイメージを無くした状態で対応したいといった訳です。実際、そのおかげで5年間ずっと赤字でした。自動車の部隊が一見悪そうに見えるのは、Schenckを買収した事によって自動車が挙げている利益の半分を喰ってました。勿論、自動車は牽引力の一番強い部隊です。ただその後、何が起きているかと言いますと、世の中で言われているように自動車産業と言うのはハイブリッドに移ったり、新しいエネルギーをベースにした展開にどんどんシフトしています。或いはジーゼルの方にも行っているし、国内の方もジーゼルに対してシフトしていたりしている訳ですが、その時にHORIBAが、排ガスだけの対応をしていけば、当然そちらにシフトしていけば、我々に声が掛からなくなる訳です。でも今は5年間の利益の半分を投入して、その中には、ドイツでSchenckの開発部隊はドイツ製の部品、製品、ドイツでの生産にこだわっていたけれども、彼ら自身がチェコに工場を建てて、チェコの部隊を1年半で立ち上げてくれました。ここで、コスト競争力がついてきたわけです。その事によって徐々に対応力が出てきた。我々は製品を網羅していますから、新しいジャンル、新しい方向へシフトしても、お客さんは常にHORIBAにコンタクトしておけば良いという安心感を持たれています。SchenckのグループはMCTと言うんですが、チェコの工場を立ち上げてすぐにフル生産とな

り、増築のことを考えているくらいで、多くの注文が入ってくるようになっていきます。今、ほぼトントンのところまで来ています。これからは利益面でも貢献してくれると思います。これからは足を引っ張ることは無くなるし、赤字が単に赤字でなく投資だったと言うことが言えるわけです。5年間良く我慢してくれました。社長が決めたことは正しいとホリバリアンが良く理解している事と私は思っていますが、普通だったらなんであんな会社を買うのかと言うでしょう。私も本当のところは買いたくなかったです。HORIBAは小さなもので高付加価値で、勝負するのが伝統だったのに、Schenckは車を載せて計る、所謂風洞試験装置みたいなものを、2階建ての物も有るんです。所謂重さで勝負するという全くHORIBAは不得手な筈なのに、そのジャンルに乗り出して、且つ今や、HORIBAブランドという面では、強さをキープ出来ています。競合のAVLなんかはこの機能を元々得意として来ましたし、あそこの本丸に攻め込むには、この製品は重要でした。

ついでにもうひとつ足を引っ張っているものが有ります。これはHITと言われる運行管理システムです。これもHORIBAの歴史からいうと、ジャンルが違うんですね。東京で開発していたものなんですけど、これも急速に市場が大きくなったと言う事で、生産を中国に委託したり、据付をローカルの会社に委託したりしているうちに非常に大きなクレームになってしましまして、製品のクレームが出てくる。それから据付自体が杜撰（ずさん）であるということでクレームが出る。私も何とか人を送り込んで改善しようとしたんですが、結果的に最も大切なリース会社の社長がアポイントを取られて、入ってくるなり写真を机の上に並べて、「これ、掘場のやることですか？」と直接やられました。その写真を見せられて、非常にショックを受けました。

---

すぐに我々の本体に吸収することにして、堀場製作所の全勢力を使って対応するという形に切り替えました。でも結果的にビジネスはある程度走り出すと、リース会社とか、クロネコヤマトとか、主要なお客さんの所へどんどん取付て行きますから急速にキッチリ対応すると一気に赤字が出てきました。これも自動車の部隊の稼いだ利益を食っています。自動車の採算が思いのほか、利益が悪いのですが、これから情報系をどう網羅するかを考えると、ビジネスモデルとしては大切です。更に、この装置で儲けるのではなく、装置から出てきたデータを売る仕事、これが日銭を稼いでいくんです。医学用もそうなんです。医学用の血球カウンターを納めるだけで終わるのでなく、その薬液が消費されることで日銭を稼いでくれる。日銭と言うと聞こえが悪いですが、日銭が回る、キャッシュフローが回るビジネスモデルにしていくということがHORIBAにとって非常に重要なんです。HORIBAの殆どの製品は、みなさんの時代はハードを売って、せいぜいサービスが日銭を稼ぐことまでのビジネスモデルだったんですが、これからのHORIBAのビジネスはそうしたトータルパッケージのビジネスに切替えていけないといけない。言い方は悪いですが、たとえセンサー一つでも使い捨てでないといけない。幸か不幸か医学用の機器は、やはり完成度の問題が有るので、使い捨てをしても社会のニーズに逆行してない。安全というのは、使い捨てより今は高い位置に置かれているわけで、そういうもので日銭を稼ぐと言うことです。先ほどの運行管理システムは情報を会社に提供することで、1台幾らかの日銭を稼いでいる。このビジネスモデルを営業部隊が作れるかどうか勝負なんです。ただ、HISMなんんかの部隊は、歴史的に販社を使っていますから、本当にお客様の先端に行けていない。いわゆる営業なんだけですけど、業務的に情報を集めてく

る。海外のオペレーションを40年前から、我々の拠点、76ヶ所の27ヶ国の自前の部隊がいるわけです。各国の人たちは、毎日、我々のお客と接している訳です。この財産が有るにも拘わらず、今まで言ったようなビジネスモデルが作れない。それは営業と言っても、こういった観点で身内のところに行って情報集めてくるから駄目なんです。一緒に先端のお客の所まで行かないと、そういったビジネスモデル、あるいはアイデアがつかれない。ですからフロントラインが大事だと言うんですが、フロントラインというのは子会社を回って情報を集めてくるのがフロントラインではないんです。最終顧客の所へ行かないといけない。この努力をする体質を、今年創立60周年ですが、わからないといけない。これは私が言っているのは営業だけでなく、開発も行かなければいけない。もっと言えば生産部隊も行かなければいけない。さらにもっと言えば、管理本部の人間も行かなければいけない。お客のところ、即ち先端へ。そうしないと今の時代、真実の情報・データというものが取れない。なまじ情報が溢れているから、本当の姿が見えない。例えば皆さんが毎日テレビを見てますね。それからインターネットが有ります。昔に比べれば本当に溢れるほど情報がありますが、でもその情報が正しいかどうかという私は昔以上に脚色された、或いは自分が取ってきていない情報をただ単に買ってテレビに流したりする。或いはそれを評論したりしているんです。ですから全く誤った情報も有りますし、全く誤って評論している人もいます。それでも喰っている程、日本は甘い国なんです。実際アフガンで欧米の記者は100人以上死んでいます。日本人は一人も死んでいない。共同通信かどこかの人が一人いるぐらいなんです。それもたまたま交通事故か何かで亡くなっている。これは何かと言いますと欧米人の記者は、メディアの人間というのは現場に行って

いくらのもんだと言うことが叩き込まれているんです。でも日本の記者は危険なところへは一切行かないで、欧米の記者たちから全部買って来るわけですね。それでいて大きな顔をしている。というのは日本は競争が無いからなんです。昨日もお台場に行って、フジテレビの前を通ってきましたけれど、あのレベルの会社であのビルを持っているというのは日本だからです。シンガポールなんかでは、あんな狭い所で、100ch有るんです。あの中国で統制されていると言ってもいろんなチャンネルがあるし、欧米ではチャンネルについてはいろんなチョイスがあります。日本は4社しかなくて、且つ新聞会社のグループ会社ですから、アメリカなんかだとテレビと新聞が戦ったったりするんですけど、日本はテレビ会社の社長は新聞社の天下りですから当然戦う事は無い訳です。また最近では記者魂がどうなったかと思うばかりで、テレビが新聞の記事を使って番組を作っているです。恥の上塗りと言うのはあの事だと思います。

そこまで墮落してしまっている。私は我々も其れに近い状態になっている危険性はないかと、これから徹底的にチェックしたいと思えます。元々日本という国は、そこで働いている人、そこで努力して、現場を担っている部隊は強いんです。現場は強かった。第2次大戦のミッドウェイなんかでも現場は強かった。日立でも、東芝でも現場はサムソンより絶対強いんです。強い日本がなぜ負けるかなんです。それはトップの問題も有るかもしれませんが、其れ以上に、情報をないがしろにしているんです。政府でも情報系の議論がなされていますけど、事実、そうなんです。日本がイージス艦を持たなかったらこの国は守れない。でも、イージス艦の秘密を漏洩した人が罪にならないような国には、当然機密情報を提供はしません。当たり前の話です。そういう漏らした奴を徹底的に罰すると言うのは当たり前の話です。でもそっちへ行かない



で、国民の知る権利の方へ話が行ってしまいます。情報も自分から取っていく、76ヶ所の拠点を持っていても、後のデータ処理が上手く行かなければ駄目です。我々の機械もそうでしょう。いくらセンサーが良くても、後のデータ処理が間違っていれば、或いは繋がってなければ、それは生かされない訳です。日本の電機メーカーはトップが世の中の動きを把握していなかったか、そこへ情報を入れられなかったか、入れる努力をしなかったか。

この土曜日にアメリカのハワイに行きます。これはITPC (International Technology Partners Conference : 半導体およびフラットパネルディスプレイ産業の経営者国際会議) の会議で、30年近くやってきたんですが、元々は日本とアメリカが貿易不均衡で政府間の問題が有った時に、民間の半導体の人たちが集まってお互いに理解し合って、民間で日米協調した対応をしようということの勉強会が元々の趣旨で始まったものです。今は当然、日米だけでなく韓国、台湾、ヨーロッパからも参加しています。ここでサムソンのリーダー、Y.W.リーさんも殆ど毎回ずっと来ておられて、日本語もペラペラですし、今は中国語も勉強されている。今はハーフリタイヤされていますけど、ずっと来られています。3日間、最新の情報が入るんです。日本のトップはずっと来てない。当然ながら、人事異動が有ったりして3年毎ぐらいで違う人



が来ます。更に半導体サイクルで赤字を出すと副社長級は首が飛ぶんですね。その後、その人はどうなるかという台湾の役員になるんですね。この人一人だけならいいんですけど、そこの優秀な部下もついて行きますから、ほとんどのノウハウがタダ同然で移っていく。ですから何故、台湾の或いは韓国の会社が急速にキャッチアップできるかという理由がこの辺に有る訳です。御存知の通り、製造装置とかは金を出せば手に入りますが、それにどう鼻薬を効かすかによってしか動かないんですね。我社も、医学用でちょっと高い製造装置を買いましたけど、やっぱり鼻薬が無いからトラブルを起こしています。鼻薬が大事です。それを如何に人事制度、大会社のオペレーションで活かせるか。本当のことを知らない人が動かしたり工場の建設のオーソライズしますから。サムソンに比べて、日本は1, 2年遅いんです。工場の立ち上げのタイミングが1, 2年遅かったらどうなるかという点は皆さんが一番理解されていると思いますが、サムソンが償却した後、日本の会社が一齐に物を出したりする。そうすると値段が下がって償却が出来なくなって、また赤字になり、それを何回か繰り返すと、スケールが小さくなって日本のメーカーが8割9割押さえていたマーケットを無くしてしまう。経営とか、情報で負けてしまう。現業部隊、実行部隊の技術で負けたんではないんです。経営者がITPCに出ればそういう情報は解るわけですから、タイミング良い本当の決裁は出来ていないんです。日本の企業は事業部長レベルしか来ない。すごく景気のいい時には、お供をいっぱい連れてどさっと来るんです。景気が悪くなると殆どの日本のメーカーは担当ベースしか来ません。でもその間、Y.W.リーさんは韓国の中小メーカー連れて来られました。そしてその何社かが今や日本に対抗できるような製造装置メーカーになりつつあります。これも情報、或いは情報管理ですね。我々もそういう体質に変わっていないと行けないということです。

今のもう一つの大きい動きとしては、海外

の拠点、ブラジル、インド、アメリカ本社とか、今ずっと投資してきているのですが、次に力を入れているのは福知山、STECの開発絡みです。STEC本社では、先端技術開発センターとしてかなりの費用を掛けて増築しています。STEC本社にクリーンルーム絡みの開発はHORIBA本社をストップして、集約することになります。効率の良い低ランニングコストで開発することになります。それからHORIBAグループの先端のセンサー技術者が集まって刺激しあえるロビーを作ります。先端技術開発はここ（HORIBA本社）から、むしろSTECに移す。

未だ、公式には発表していませんが、自動車の開発部隊は雄琴の琵琶湖工場の方へ、新たに100億円近い費用を掛けて集約していく事になります。日本国内での製造に対して絶対に力を入れなければいけないと思っているんです。将来的にやはり高付加価値の商品を如何に短期に開発して、市場投入し、品質を維持して行く事が重要。これが将来とも勝負になってきます。これをするには社内ロジスティックス。開発→設計→生産→販売→サービスに、お客さんの情報を取れるテストセンターを横に置く。これをワンパッケージにすることで競争力を強めようということです。今のタイミングで、経営者で日本で工場を建てるのはアホちゃうかと言われているんですが、「今しなくていつするの？今でしょう！」ということで、着々と計画を進めています。ただ、固定費も上がりますし、ここの工場も中味を変えて効率を上げるようチャレンジしていきたいと思っています。今回社債も150億円やりました。0.6%の利率で何ほども貸してくれる。これが本当のブランド力だと思います。HORIBAが社債を出すと取り合いになります。それも0.6%で。これは嬉しいですよ。これが私の勲章ということなんです。株価は当然高いほうが良いんですが利率も外部的要因があります。大きな資金を調達出来るのは正に私の通知簿

なんです。今回、そういう信頼を得ているということは私は嬉しかったです。銀行さんが挨拶に来られるんですけど、「幾らでも貸しますから、言って下さい」と言われるんですけど、こんなの借りたらえらい目に合います。本当に必要な時、引き上げますから。昔から某、S銀行から痛い目に遭っている。気をつけよと家訓として最高顧問から言われています。必要な以上にお金を使ったらロクなことはない。慎みたいとは思っています。けれど、一方では投資すべきものは投資していく。企業と言うのは永遠です。クォーター（四半期）毎に成績を発表しなければいけない。それに引っ張られていないと言うと嘘になりますが、それだけで経営していたんでは将来が無いと言う事になります。

毎年80人から100人位の新人を採用しているんですけど、正に今すぐ要るかと言うと要らない。必要なら、今の時期、大手家電が可怪しくなっているからすぐ使える人材というのは採れる訳です。でも違うでしょ。やっぱり自分達が手塩に掛けてロイヤリティーの高い人材をきっちり育てていく事が結果的に、安定的な経営、或いはHORIBAらしいユニークな製品が出てくると言うことを堅く信じています。ましてある年だけ人材は一人も採用できない。景気の良い時に採用し、悪い時には採用しない。これをやるとマニュアル化が出来ないノウハウが伝承されていかない。拠点の重さもさることながら1300億円レベルの売上規模で、一千種類以上の製品を作ったり、販売したりしていると言う事は、一人一人がマルチ化していかないといけない。と言う事はマルチファンクションを若い頃からトレーニングしていないと、脳みそがマルチ化しない。大手企業には優秀な人もおられますが、シンプルな事を集中的にやる教育を長年受けきた人は、脳がマルチ化しない。HORIBAは小使いから、校長までやってもらわないといけない。そうでないと我々のパワーが出ない。逆に、途中入社の方は専門的な所を生かし、この組合せ、これを私はやっていきたいと思えます。人も安定的に採用する事に努力しています。

HORIBAとは何かと聞かれたら、最近ではこう言っています。「ステンドグラス」です。皆さんは綺麗なイメージを持つでしょう。マル

チカラー、製品的、人材的、特に人材はステンドグラスです。教会で掃除出来ない所に在って、埃が溜まっていたりします。よく見るとあのステンドグラスがピカッと磨いていない。ちょっと歪（いびつ）なんです。歪だから綺麗なんです。正しく我社の社員ではないですか。皆さんは辞められているから気を悪くされることは無いかと思いますが。もう一つだいじなことは、ステンドグラスは何千枚、何万枚のガラスが合わさって綺麗に見えます。1つが欠けたら直ぐ解ります。だから1枚が大事なんです。あなたが抜けたら完成しない。歪で埃を被っているけど大事なんだと言ってます。

最後に言いたいことはスーパーマンばかり育てるわけには行かない。世の中には居ない訳です。でもスーパードリームチームは出来る。一人一人の人財を大切にする。人財のザイは材料の材ではなくて財産の財なんです。逆に言うと、頑張らないで、ボーっとしてたら駄目ですよ、と同時に言わせてもらいます。それがパワーになっています。

HORIBAの人たちは明るいですね、礼儀正しいですねと会社に来られた方は必ず言ってくれます。海外のビジターもそう言ってくれます。でも、挨拶するように言っていますから、礼儀正しいと言われても当たり前です。それより、良い雰囲気ですねと言ってくれると嬉しいですね。HORIBAはこのジャンルで、常に世界一を目指していますが、こうすることで可能ではないかと思っています。

以上が近況で、大体大きな方針です。皆さんは1回聞いたら解っていただけたらと思いますが、会社では大体10回言わないといけません。（笑）

御静聴ありがとうございました。（抄録）



## 第2部 年次総会

平成25年11月7日(木)午後1時より堀場製作所OB会第18期総会が本社講堂にて開催されました。

第1部は、堀場最高顧問より「講話」が有りました。今年は、スケジュールの都合で、最高顧問の「講話」が最初で、堀場社長の「近況報告」は第3部で、年次総会の後と言う事になりました。最高顧問の「講話」と社長の「近況報告は」この前のページで、詳しい記事になっていますので、内容は割愛しますが、どちらも今の日本と、HORIBAを取巻く状況を解説して頂き、大変興味深く聞かさせて頂くことが出来ました。

ここでは、第2部の「年次総会」について、御報告致します。

第2部は、川越氏が第17期の事業報告を、田中光子氏が会計報告を行なわれました。田中会計役も今回が最後になる総会であり、敢えて会計報告は田中光子氏自ら報告されました。また、監査役の都合で、監査結果の報告も田中光子氏が代行で、指摘事項が無い旨の御報告を頂きました。また、これらについて出席者全員から、御承認を頂きました。

その後、第18期の代表幹事として、酒井俊英氏が推薦され、全員の御承認を受けて、漸く代表幹事の交代が実現いたしました。新任の酒井代表幹事から、第18期の事業計画と予算計画が提案され、新幹事体制についての提案があり、これらについても、出席者からの御承認を頂きました。

第18期の運営方針は「”たすき”を受継ぎ、会員は能力を高め、”おもしろ おかしく”社会に貢献する」です。

今期は新幹事体制の出発に当たり、諸支出の見直しを行ない、費用の圧縮と、より社会貢献に重点を置く一方、会員の絆を深める活動を強化する意味において、クラブ活動費の20%増額と新クラブの設置を予定することが

示されました。

■社会貢献のボランティア活動は、

- ・桂川クリーン大作戦へのOB会としての正式参加する。
- ・京都マラソンへのボランティア参加をする。

■生き方探求館ものづくり工房の工作授業への更なる参加を推進を行う事とし、CCO(コーポレートコミュニケーションオフィス)との連携を密にします。

■KSVU(京都シニアベンチャー連合会)の活動にも積極的に参加し、人材支援マッチング事業、中小企業の省エネ診断事業、大学のシーズの紹介資料作成等にも積極的に参加します。

■クラブの新設は東京支部のゴルフクラブ、本社の囲碁クラブとゴルフクラブを設立する等を予定しています。

■新しい幹事体制について承認されました。

以下が、新体制です。

- ◆代表幹事 酒井 俊英
- ◆副代表幹事 船越 健(KSVU事務局長)
- ◆幹事 森山 晶成・中村 正博・中村 十規人・谷口 義晴(東京支部)
- ◆新任幹事 笠川 重美(会計担当)
- ◆退任幹事 川越 幹・小谷 昌男・山本 広太郎・田中 光子(上記4名はアドバイザーとする)
- ◆会計監査 石黒 英憲 湯浅 一郎・中井 眞啓(堀場製作所)

■古希のお祝い金贈呈者(5名 敬称略)

- 宮崎 育雄・國房 俊彦・森井 邦彦・竹内 幸雄・峰野 幸弘(入会順)

■川越 幹氏は、今回代表幹事を退任されたので、慰労金一封が贈られました。

以上



【第18期年次総会全員写真】

第4部 懇親会



【川越前代表の乾杯の挨拶】大爆笑で始まりました！

【懇親会のショット集】



# 定例幹事会

## 第18期 第1回定例幹事会

平成25年11月12日(火) 14:00～16:00、OB会室にて、笠川重美、酒井俊英、谷口義晴、中村十規人、中村正博、森山晶成とアドバイザー、川越 幹、小谷昌男、田中光子(50音順)の参加を得て、第18期第1回幹事会が行われた。

今回から、アドバイザーの方々には今後1年間は、年3回の出席を頂き、大所高所からアドバイスを頂く事となった。

### 主な議事内容

①11月7日の総会について、評価と反省を行ないました。時間が長いといった意見も有り、プレゼンの資料にもっと活動の写真を紹介した方が良いといった意見が出された。次回への検討課題として、幹事間での共有が図られました。良かった点では、料理が質的にも、量的にも良かったとの声が多かった。ホさんやホリさんと話が出来て、意義が有ったという意見も多かった。

②年間スケジュールを決定。教養レジャー例会は11月29日、6月20日に決定。春の懇親会は2月から4月5日(土)に、夏の懇親会は8月30日(土)。一泊研修旅行は2月21日～22日を予定した。これらは年間スケジュールとしてホームページにUPされる。

③第18期予算管理について、総会で承認を受けたものを確認。クラブ活動費は総枠の増加と、クラブ数の新設に伴い、再配分を行なうことを決定した。

④新体制での役割分担について以下に示す。

- ・代表幹事 酒井俊英
- ・副代表幹事 船越 健
- ・会計幹事 笠川重美

### 各部会活動担当

- ・キャリア部会 酒井俊英、森山晶成
- ・ボランティア部会 森山晶成、中村十規人
- ・研修旅行/教養レジャー例会 中村正博、森山晶成
- ・クラブ活動総括 中村正博、森山晶成
- ・OB会会報 酒井俊英、湯浅一郎、中村十規人

・ホームページ

酒井俊英、中村十規人、山本広太郎

・会計 笠川重美

・KSVU 船越 健(事務局長)、

小谷昌男(理事長)、酒井俊英(幹事)

・会計監査 湯浅一郎

・総会 酒井俊英、幹事全員

・会社連絡会

小谷昌男、山本広太郎、酒井俊英

・アドバイザー

川越 幹、小谷昌男、山本広太郎、田中光子

⑤キャリア部会は、KSVUとの連携を強化。積極的な参加を呼びかける。

・京都生き方探求館ものづくり殿堂での工作授業の推進と活動を拡大を促進。

・今年度も、省エネ研究会、大学発技術シーズの移転事業、人材ニーズマッチング事業に対応していく。

⑥ボランティア部会については、従来通の鴨川を美しくする会の活動に参加すると共に、桂川クリーン大作戦(2月23日)、京都マラソンのボランティア活動(2月16日)にも参加する。

⑦教養レジャー例会は春と秋の2回、観光と研修を兼ねて、公的施設、各企業、その他それに準じた場所を検討する。スケジュールについては2013年11月29日と2014年6月20日を予定する。

⑧研修旅行は年1回とし、期毎に日帰りとお泊を交互に行うこととする。目的は、懇親のみならず、文化、歴史、社会活動等の研修を併行して行う。スケジュールは2月20日、21日を予定する。

⑨懇親会は、例年であれば2月と8月であるが、研修旅行を2月に行うので、4月5日移し、8月は30日に移す事とする。(どちらかは場所を別にする事を検討する)

⑩会報はホームページとの棲み分けを考慮し、寄稿文主体に進める。寄稿文を増やすために、投稿の呼掛けを行う。

⑪ホームページは、暫くは山本さんに続いてお願いする。諸活動の報告を速やかにを行い、遅滞なくアップするように配慮するよう注意する。

(酒井俊英 記)

## 第18期 東京支部第1回定例会

東京支部は2013年11月1日（金）13時より堀場製作所東京支店会議室にて全員参加の回答をいただいていたが、久々に11名と多数の出席を得て第1回定例会を開催しました。

議事は18期支部副幹事2名の新体制・年間行事計画の5定例会および一泊研修会の日程、9月13日に京都本部での第3回定時幹事会報告が谷口幹事からされた。

その後、支部幹事会の報告、今後の支部活動方針について、11月28,29日に延期された支部ゴルフ会開催について新井副幹事より報告、会社幹部および代表幹事の定例会出席について、新規加入予定者の男性および女性の状況見通し、年会費払い込みの確認などがされた。

また、東京支部恒例の一泊研修旅行（伊豆修

善寺方面）案について、海野副幹事より平成26年5月30日、31日の一泊旅行詳細が観光（虹の郷）とゴルフ会（伊豆国際カントリー）の両方について説明がされた。今後継続して詳細を詰める予定となった。八丁堀時代の有志による懇親会を、10月11日に箱根湯本のホテルで7名の出席で開催と玉置さんより報告、このあと、場所を移動して定例の懇親会を「そば処大新」で開催、久々の参加された人とのお互いに懇親を深め、喫茶店にてより活発な話題で盛り上がりその後散会となった。

◇出席者（敬称略）

寺西英三、大志万継影、草鹿悌二、辻川毅、村木泰雄、玉置健三、大道寺英弘、横井広秋、谷口義晴、海野興一郎、新井章生

（谷口義晴 記）



## ボランティア部会

### 鴨川を美しくする会

#### ー鴨川クリーンハイクー

平成25年11月3日（日）堀場OB会ボランティア部会として「鴨川を美しくする会」主催、鴨川クリーンハイク(定例)に参加しました。

当日は天気も良好で、午前10時に集合場所の鴨川丸太町北詰河川敷に川越、萩原、森山の3名が集合しました。軍手、ゴミバサミ、ゴミ袋の3点セットを受取つた後、出発に際して、杉江事務局長からご挨拶と注意事項がありました。

続いて、丸太町大橋西詰を起点に左岸と右岸の2班に分かれて川越、萩原、森山は左岸の担当で上流の北山大橋に向かって出発しました。

京都付近は9月16日（月）の水害の瓦礫などはスッキリ清掃されていますが、富田病院付近の運動公園の近くの草むらに「掛け布団」を丸めたゴミを3個を見つけて川越、萩原が1個づつ回収しました、又 残りの1個は他の



グループの参加に応援して頂き回収が完了しました。

森山はダンボールの固まり（3～4枚）を回収して最終目的地まで重いゴミを運び良い仕事をした思いにひたりました。

（秋山重之 記）

## キャリア部会

### 生き方探求館・ものづくり工作授業

平成25年の最後の学習支援を11月27日(水)に実施しました。受講者は、堀場本社に近い吉祥院小学校の5年生73名でした。今回は広報室からの参加は無く、11月19日(火)に本社にて準備した100式分の機材を、事前にモノ作り探求館に送付しました。

前半は1名の欠席があり、9班35名、後半は9班37名でした。森山さんがスピーカーを担当し、川越幹さん、萩原孝一さん、中村正博さん、石黒英憲さん、池田俊明さんと私・村瀬潤がサポート役です。

順調に授業が進行しましたが、組み立てた温度計のスイッチを入れてもLEDが点灯しません。一瞬不良品かと驚きましたが、センサーを手のひらで暖めると緑のLEDが点灯しました。今回は朝の冷え込みが強くなり、緑が点灯する18℃より低くなっていました。

隣室に準備した保冷剤、ドライヤー、ポ

イントクーラーで、完成した温度計を試してみる子供たちの表情は楽しさ一杯でした。次回は、年が明けた2月18日(火)を予定しています。

（村瀬 潤 記）





－NPO法人京都シニアベンチャークラブ  
連合会の活動状況（平成25年度）－  
KSVUは発足16年目を迎え、活動も多岐  
にわたり取り組んでいます。

12月末現在で参加クラブは9ベンチャークラ  
ブとなりました。各クラブの会員数を合計し  
ますと404人となっています。

堀場OBベンチャークラブ（HOVC）会員  
も50名超の登録をしています。

＜平成25年度のKSVU事業活動状況＞

### 1. 【企業OB人材の活用に関する企画運営 事業】

◆企業OB人材の中小企業・団体支援  
多士多彩の人材が中小企業の支援要請に  
応えています。

本年度は12月末段階で18件のマッチング  
実績を数えています。

◎OB人材登録者数58名。

（内4名はHOVC会員）

### ◆省エネ研究会事業

京都産業エコエネルギー推進機構（京都  
府・市共同機構）の省エネ・節電診断事  
業の省エネ無料診断を実施しています。

12月末現在 43件の省エネ診断を実施し  
ています。

◎省エネ研究会登録メンバー 24名

（内3名がHOVC会員）

### 2. 【大学発技術シーズの中小企業移転事業】

大学の技術シーズを中小企業に移転するこ  
とを目的に、中小企業向けの技術シーズ集  
『Business Sprout』を作成  
23・24年度で京工織の技術シーズを107  
件完成。25年度は京都大・立命館大・龍  
谷大のシーズを中小企業向けの技術シーズ  
集『Business Sprout』作成  
に挑戦中。目標は50シーズ。

### ◆大学発技術シーズの中小企業移転事業

◎メンバー 10名

（内1名がHOVC会員）

### 3. 【OB人材等を活用した中小企業知財活用 ／実証モデル事業】

琉球大学発技術シーズの企業への移転事業  
琉球大学発の知財シーズ62件を関西の企  
業にマッチングを開始。60件のマッチン  
グを実施中・・・2月末日の事業報告を  
目標に推進中。

### 4. 【25年度震災復興都市間連携販路開拓支 援事業】

京都・神戸・名古屋・東京・川崎の各都市  
の展示会に仙台企業が展示参加し各都市の  
コーディネータが販路ナビを実施。

### 5. 【地域間の相互補完によるイノベー ション力強化モデル事業】

川崎・神戸・北九州・京都・仙台の5都市  
を結ぶ 企業間連携促進プラザの開催

1月23日24日に京都で開催（ACT京  
都）京都オスカー企業5社が参加

### 6. 【25年度 モノづくりの殿堂・工房学習】

生き方探究館 モノレンジャー活動 118  
校、7300名の児童に対応。

### ◆モノレンジャー100名

（堀場OBVC会員30名が参加）

◆1月24日に教育長より京モノレンジャ  
ーへの感謝状贈呈式がありました。

（HOVCは8名が対象となりました）

【次ページに感謝状贈呈式を追補しました！】

### 7. 【京都市生涯学習市民フォーラム】に 加盟

### 8. 【見学会・講演会セミナー】

### ◆講演会

① 6月26日 日経京都 三宅氏  
『アベノミクスの今後』

② 11月27日 京銀 山田氏  
『NISAとその活用方法』

③ 1月28日 山本君江氏  
『生涯現役社会実現 60～80歳に豊か  
な人生を』

今後とも、堀場OB会キャリア一部の  
KSVUへの積極的参加をお願いします。

（船越 健 記）

NPO法人

京都シニアベンチャークラブ連合会事務局長

## 京モノレンジャー感謝状贈呈式

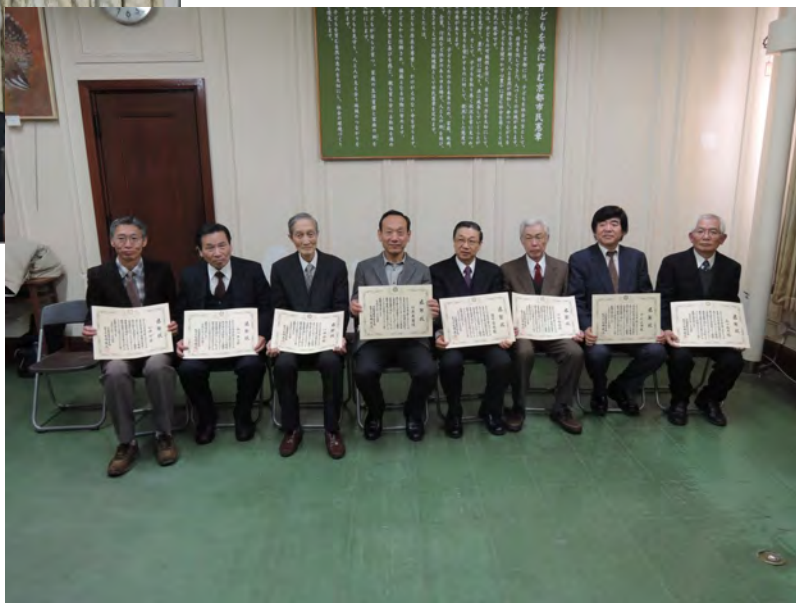
1月24日（金）14時から京都市役所本庁舎4階の教育委員室に於いて、生田義久教育長より、KSVUの京モノレンジャーに対し感謝状の贈呈式が行われました。

平成25年度の「京都ものづくりの殿堂・工房学習」でのボランティア活動に対し、20名のモノづくり学習支援要員・京モノレンジャーに感謝状が贈られました。その中には、堀場製作所OB会キャリア部会・HOVCの8名が含まれています。ここに名誉を讃え報告致します。受賞者は、秋山重之氏、池田俊明氏、石黒英憲氏、川越幹氏、酒井俊英氏、中村正博氏、村瀬潤氏、森山晶成氏（アイウエオ順）の方々です。贈呈式の写真を御覧ください。

【挨拶される生田教育長】



【贈呈式出席者全員】



【左から：村瀬・秋山・川越・石黒・酒井・池田・中村・森山】



## クラブ活動報告

### 山遊会

—第31回 例会山行報告—

- ・年月日 平成25年11月8日(金)・晴
- ・山行先 音羽三山 音羽山(852m)・経ガ塚山(889m)・熊ガ岳(904m)
- ・参加者 下川和子・高橋義治・下川博司・倉原政治

今年台風の当り年となり、第30回例会(皆子山)は中止となっしまい、今年度初回は奈良県の山からスタート。近鉄京都駅午前7時50分集合。午前8時丁度発急行橿原神宮前行きになり、大和八木駅で急行名張行き午前



9時08分発に乗り換え桜井駅で下車。電車が少し遅れバスの時間に間に合うか心配したがセーフ。金曜日なのに登山客が大勢いて、談山神社行きの小さなコミュニティバスはたちまち満席立ちん棒となる。9時40分下居下車、ここで下車したのはわれわれ4名のみ、彼らはどこの山に登るのだろう。身支度をして9時45分出発。コンクリート舗装された善法寺(音羽観音)までの参道は急坂の連続で、丁石を数えながらタツプリ汗をかいて10時33分観音堂へ。天然記念物で樹齢600年のお葉つきいちょうの銀杏を試食し、お土産に買い求める。鐘楼前で記念撮影をして10時50分出発。近日の雨で沢となった谷道を行き11

時10分開けた場所に出た。香具山を眼下に望み暫し休憩。背後の杉の植林帯にかすかな足跡あり、それを頼りに滑りそうな急傾斜を直登し稜線の山道にでた。小さな起伏を2つ3つ越えて音羽山山頂が現れた。11時40分記念撮影だけすませ経ガ塚山へ向かう。転がり落ちそうな急斜面を慎重に降り、急坂を登り返して12時5分経ガ塚山山頂に到着した。見通しは利かないが明るい山頂である。記念撮影のあと昼食とする。12時35分出発、またも急傾斜を標高にし1000mほど降り、胸まであるささを掻き分け隠れた倒木に気をつけながら稜線を登る。13時10分熊ガ岳に到着これで三山踏破。小休止の後三度急坂を降り、マイクロウェーブ反射塔の横を通り13時50分大峠に着いた。5分で林道終点へ、14時25分大峠トンネル前にでた。しばらく車道を下り、途中で旧道に入り不動滝バス停に14時45分到着、しかしバスは15時36分まで無い。折りよく談山神社から帰る空車タクシーが通りかかり、桜井駅まで乗り合わせる。近鉄大和八木駅で15時44分発の急行に乗り換え帰路についた。例会案内時に初級コースと紹介したのがあだとなり、急坂の度に「こんな初級はない」を連発されたが、変化に富んだ楽しい山行であったことを付記しておきたい。

(下川博司 記)



—第32回 例会山行—

- ・実施日：平成25年12月13日（金）晴時々雨
- ・山行先：唐櫃越/沓掛山(415m)・みすぎ山  
(430.3m)
- ・参加者：下川和子・下川博司・高橋義治・  
丸山 博・中村正博 宇野久仁男・  
山岸 豊・橋口純男

当初11名の参加予定であったが直前で3名が欠け8名での山行となった。

阪急上桂駅に午前9時に集合し登山口に向かい、9時20分登山口で中村さんと落ち合う。正午から雨の予報が出ていたが、9時前

11時20分出発、12時過ぎ西山団地に通ずる舗装道にでた。団地と反対方向に進み、日当たりのよい適当なところで昼食休憩とする。12時40分に歩き出し、ほどなくして中ノ谷林道分岐を通過、広場を経て林道終点からみすぎ山の登りに取り付く。高圧線の下を登り、13時20分2つ目の高圧線の紅白の鉄塔の前で2回目の記念写真を撮る。3つ目の高圧線直下がみすぎ山の頂上だ。尾根を少し歩いたところから左に折れ谷道を下る。雨水による侵食で荒れた道が登山口まで続く。14時15分馬堀側の登山口にある宝泉寺に到着。休む間も



なくあられ交じりの雨が落ちてきて、いそいで傘を取り出し鵜の川を渡り、トロッコ亀岡駅を右に見てJR馬堀駅へ向かう。駅に着く頃には雨も上がり、地元の宇野さんとはここでお別れ。14時39分発の電車に滑り込み帰京。今年の納山とした。

(下川博司 記)

に小雨がぱらつきはじめ、雨具をつけての山歩きとなる。六地藏に見送られて竹林の間を抜け、田尾分岐を過ぎて、最初の桂坂野鳥遊園分岐で橋口さんが下山することになり、中村さんと一緒に野鳥遊園に向かうことで10時20分2人と別れる。野鳥遊園そよご道分岐では左手下に桂坂の街並みを望む。自然林の緩やかな道を50分ほど登り沓掛山に到着、いつしか雨は上がっていた。記念撮影の後



## カメラクラブ

カメラクラブは、現状規模が小さく、クラブ単体としては、個別の撮影会は行っていませんが、OB会の教養・レジャー例会等に、必ずカメラを持参して参加し、単に記念写真を

思っています。そのためには、OB会員皆様多数のご入会をお願いして、もっと楽しく、盛大な活動を念じています。

成果の発表としては、OB会年次総会の懇親会に会員の作品を展示して、皆さんに観賞して頂くことにしています。よろしくお願いたします。

(川越 幹 記)



【永源寺山門】



【八風の湯】

撮るのみでなく、美しい「作品」作りを念頭に活動をしています。

2013年後半は、2013.6.21に滋賀県永源寺のレジャー例会への参加、2013.11.29は京都水尾の柚子の里レジャー例会に同行して活動しました。

しかし、レジャー例会との併催は、作品作りには、少し慌ただしいので、来期は、少なくとも一回は単独撮影会を挙行したいと



【柚子の里－暖簾】



【柚子の里－柿】

## グランドゴルフ

平成25年11月13日（水）滋賀県・草津・矢橋  
帰帆島公式グランドゴルフ場。

酷暑の夏から市街の紅葉が始まる前に寒波が  
来襲し、京都市北部や伊吹山に初雪のあった  
朝に冬支度で集合した。強い冬型の気圧配置  
で、雨のち日差しそして雨の天気の様子に  
なった。



参加者は5名で、11時前から少し紅葉し始  
めたコースへ行き、他のグループもいたが、  
渋滞も無く、傘を持ちながらもゆっくりとプ  
レーを楽しむことができた。コースは雨で芝  
が濡れ球の走りに戸惑ったが、最初の1番  
ホールで宮本さんがいきなりホールインワン  
を出し、皆びっくりした。今日は4コースも  
回り、雨の時間が少なくなると芝生も乾きだ  
し、お互いに色々なことを言いながら楽しく  
プレーをした。宮本さんはもう1回ホールイ  
ンワンを出し、山本さんと萩原が各1回出  
したので責任者の森山さんがあまり出ると賞品  
不足を心配した。と後で聞いた、梶並さんは  
少し調子が良くなかったようだった。2時間  
ほどプレーして、いつもの食堂で賞品の授与  
と遅い昼食を済ませて解散した。

（参加者）

川越さん、梶並さん、山本(広)さん、萩原さ  
ん、森山さん、宮本さん

（萩原孝一 記）

## 東京支部ゴルフクラブ

東京支部では平成25年11月28日（木）  
29日（金）に第1回ゴルフクラブ部コンペ  
を穏やかな晴天の中、喜連川温泉のあるゴル  
フ場で2日間2ラウンドプレーし豪勢なゴルフ  
を満喫してきました。東京ゴルフクラブ部は  
ゴルフ愛好家の懇親を深め、会員の増大を計  
るため会員7名で18期に設立されました。  
第1回記念コンペを10月の最高の季節で、2  
組で開催予定でしたが、台風27号の接近と  
前線の影響でやむなく、11月の月末に順延  
となり、今回は残念ながら参加人数が減少。  
1組で、草鹿さんのメンバーコースで以前、  
三菱ギャラントーナメントが開催されたこと  
のある、栃木県の北側の大日向カントリー倶  
楽部で開催された。当日は西日本中心に全国  
的に寒い日本列島であったが、関東地区は雲  
ひとつ無い晴天に恵まれ絶好のコンディショ  
ンであった。晩秋でフェアウェー、グリーン  
に落ちた枯葉やセミラフでは落ち葉が降り積  
もり、ボール追跡に苦労したラウンドとなっ  
た。2日目は寒波が入り朝はグリーンには霜

が降り白く、凍りついていた感じでしたが、  
7時45分スタートでは暖かくなっていた。  
バスグロ、ドラコン、ニアピンを競い、成績  
は両日とも谷口氏が本来の実力通りの力を発  
揮出来なかったが優勝となった。宿泊はゴル  
フコースに隣接したロッジに泊まり喜連川温  
泉に入浴後、懇親会を行いました。今後の日  
程、4月、6月、10月のゴルフ場の予定確  
認、今日のラウンドの反省と翌日のコース攻  
略の話題に花が咲いた。次回は参加人数拡大  
を募り、より活性化させる大会を祈念してJR  
東川口駅で夕方に解散し無事終了となった。

（参加者）草鹿悌二、谷口義晴、新井章生

（新井章生 記）



## OB会行事報告

### 夏の懇親会

OB会夏の懇親会が「がんこ 高瀬川二条苑」で8月24日18時より開催されました。

川越代表幹事の挨拶の後、山下総務部長より堀場グループの近況を報告していただき、びわこ工場の拡張工事計画など最新の情報を披露いただきました。吉井さんより乾杯の挨拶にて宴会へと移りました。

私は久しぶりにお会いする方々でお名前が、



直ぐに出てこない場面もありましたが、みなさん健康で元気でられる姿に大変に嬉しくなりました。そして会社生活の中で技術や社会人としての考え方などご指導いただいた事を思い出し、タイムスリップした思いでした。会場はみなさんの近況や思い出をお話されるので大変に盛り上がり、また持ってこられた懐かしい写真を手にされて写っている方々の思い出話に華が咲いたり、OB会に新しく入会された方々を中心に挨拶をいただき、宴も大変に盛り上がっていました。終わりに、酒井幹事より締めをしていただきました。時の流れを感じながらOB会のすばらしさ、楽しさを感じる時間でした。

(笠川 重美 記)

### レジャー例会

今期OB会 初のレジャー例会が2013年11月29日(金)に開催されました。

京都駅に集合し、JR嵯峨野線(山陰線)にて保津駅に到着しました。秋晴れで駅(橋の上)から見える保津峡と紅葉の山々との景色が美しく、駅の下には保津川下りの船も見え絵葉書の中に居るような素晴らしい雰囲気でした。

保津駅から水尾「ゆずの里」へは、車組と徒歩組に分かれ、私は、徒歩のハイキングを選びました。青い澄み切った空、川の流れる水音、自分の歩く足音と自然を満喫しながら遠足気分です。徒歩組の皆さんは、カメラで風景を写す方、お話をされながら楽しく歩く方々それぞれ秋を楽しまれました。

歩くこと約1時間足らずで水尾「柚子の里」に到着、すき焼きのおいしそうな匂いが

して、お腹はすぐにでも食べたい気持。

また、先に到着の方からも「早く食事」との声があがりましたが、まずは「ゆず風呂」に入らなければと思い、湯ぶねにドボンと浸かりました。柚子は、丸ごとが浮かんでいるのと、木綿のふくろに入ったゆずとで、柚子の香りがいっぱい。檜の湯船でゆっくりつかり汗を流しました。

いよいよ、地鶏のすき焼きです。萩原さんのご挨拶と乾杯で懇親会スタートしました。お風呂に入った暖かさとみなさんの活気、そしてすき焼き鍋の熱気で部屋はすぐに暑くなり、カメラのレンズも曇ってしまいみなさんを写しても霞の中の状態です。

思い出話や、近況のお話で盛り上がり、時間は、すぐに過ぎ、帰りの柚子の里のバスの時間となりました。



帰路の車中で、みなさん、おいしかった、楽しかったとの言葉に私も頷き「柚子」のお土産を持って帰りました。

(笠川 重美 記)

## 東京支部活動

### 堀場社長との懇談会

2013年9月5日午後1時より千葉県幕張のホテル・ザ・マンハッタン2Fルーナ室にて堀場社長及び幹部との定例懇談会を開催しました。朝から雷が鳴り雨が降ったりやんだりする中、懇談会に先駆け9月2日の埼玉県越谷市と4日の栃木県鹿沼市で発生した竜巻に対して、社長はじめ皆様より災害について

ご心配を頂きました、越谷の我が家では500メートルほど北側を通過した為、被害は何も無かった事を報告した。

懇談会は堀場社長より、HORI BAの業績について、売上高は増収、営業利益は少し減益になった事。また為替の影響は大きい事。海外での動き、採用での状況、食事の問題等について、お話があった。今後の話として、これから伸びていく方向、半導体の拠点とし

て堀場エステックの京都福知山にテクノロジーセンターを開設する。更に、エステック本社にHORI BA最先端技術開発センターを開設する事等、話された。更に、「日本分析機器工業会、日本電気計測器工業会の会長をやって、HORI BAのイメージもアップしてきている。」と自信を示されました。





また、石田副社長からは「グループの品質会議を開催している事」の報告がされました。OB会出席の6名よりそれぞれの近況をお話した。大志万さんより4月に京都より茨城県つくば市に移住して東京支部へ、辻川さんより地元白井市から環境に関する功労賞をいただいた等。

懇談会終了後、幕張メッセで開催されてい

るJASIS2013展(旧分析展)のHORIBAブースの新製品を中心に見学した。

〈出席者〉

堀場社長、石田副社長、佐藤常務、  
山下総務部長、新井、大志万、草鹿、  
玉置、辻川、谷口(敬称略)

(谷口義晴 記)

## 会員の寄稿文

### 代表幹事を振り返って

川越 幹

平成8年、待望の堀場製作所OB会(ホリバファンクラブ)が当時の会長、社長及び会社を挙げての大いなるご支援により、立派に設立されました。以来発起人であり、初代表幹事の樋口隆一氏により約8年間、同氏の粉骨砕身のご努力で、OB会活動もやっと軌道に乗ってきました。しかしながら大変残念なことに、平成16年突然体調を崩されました。そこで当時の幹事会からまだ勤務中の私に、2代目の代表幹事を引き受けて欲しいと依頼(強要?)されましたが、当時まだ勤務中であることと能力が無いと固辞していましたが、「何もしなくてもよい、ただ形式上の代表として名前を連ねて欲しい」としつこく説

得され、おっちょこちょいの私は、迂闊にもそんな言葉に乗り引き受けました。(後日それが嘘であることになりましたが)そこで樋口様には、ご指導を仰ぎながらそろそろスタート致しましたところ、全く予期せぬことに、お引き受けした年の翌年の5月に樋口隆一氏が急逝されました。このことは、本当に慙愧に堪えない出来事として、今でも心に焼き付いております。

以来、おられなくなった以上、本格的に幹事会の一員として、OB会員の皆様のニーズに沿って、相互の懇親を深め、グループ力を固め、社会貢献、会社への協力等の諸活動に注力させて頂きました。

(詳しい経緯は、配布済みの「設立15周年記念誌」を参照ください)

振り返りますと、65歳までの会社勤務に引き続き現75歳までのOB会活動は、会社にしぼしば入社することとなり、はっきりとした退職感が無いまま歳を重ねてきたと言えます。これは全くの私見ながらOB会のお蔭といいたいでしょうか、



堀場製作所一本の人生を送ることになったことについて、今は心から感謝しています。しかしアホちゃうかという人も勿論おられることと思いますが・・・。

現在、京都市まなびの街生き方探究館での小学生対象の理科工作支援ボランティアへの参加と、KSU関係で新規役登録を発端として、大学のキャリアセンターにて就職活動指導を継続して行っています。これらも生涯教育の一環として生き甲斐にもなっています。

さて、私の終生の思い出として大変光栄な出来事は、OB会設立15周年の記念式典の時、OB会から代表して最高顧問に米寿のお祝いをさせて頂いたことです。

今後ともいついつまでもご壮健にて、OB会をご指導賜りますよう祈念しています。ところで平成25年11月から、かねて懸案であった次代の幹事体制が決定し、新体制にバトンタッチすることが出来ました。しかし彼らはまだ不慣れのこともあるので、旧幹部4人はアドバイザーとして、今までの成果の上に若い知力をもってさらなる発展を促すため、この1年間は、側面から支援してゆくことになりました。OB会員の皆様のご意見、ご提案、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

掲載の写真は、今年の総会懇親会の時に、敢えて撮らせて頂いた私として最高の宝物としての記念写真を掲載させていただきます。

## 我が家のダメ亭主

梶並強平

我が家のダメ亭主は小心者で貧乏性、そして相当な頑固者である。又我が家の嫁さんは口達者で、実によくしゃべる。そこで我が家では、度々舌戦がはじまる事になる。騒動が始まると、ほとんど嫁さんばかりがしゃべりずめになり、ダメ亭主はこの嫁さんの口には、絶対に勝てない。一旦しゃべりだすと止まらなくなり、舌が故障してしまったかと思われるくらい、よくしゃべりだす。

外出した時等、脚線美の綺麗な女の人を見るとどうしても気になり、“いい女だなー”と思うと、目がそちらの方に釘づけになってしまう。嫁さんには何一つ取柄は無いが、勘だけはすこぶる良い。ダメ亭主のこのような態度をすぐに見破ってしまい、加えて私の昔の古い傷跡等を持ち出して、延々としゃべりだす。ダメ亭主が降参してしまうまでは、決して止まらない。しかし、美しいものに惹かれるのは、誰しも当然の事であり、ただこれだけの事なのだが、それをダメ亭主が言うと、また同じことを繰り返し、しゃべりだす。

貧乏亭主の、おかずの食べ方についても、嫁さんとは全くと言っていいくらい違うのである。私は子供の頃から好きな食べ物には、すぐには箸が出ない。嫌なものから先に平らげて行き、そして最後に最も好きなものを、満足をしながらゆっくり食べる。考えて見れば大変ミミッチイ貧乏性の食べ方である。一方嫁さんはどちらかと言えば自分の好きな物と色々と食べ合わせて、片付けて行く食べ方をする。そこでどうなるかと言うと、この下品な食べ方をする貧乏亭主と嫁さんとは、つまらぬ喧嘩に発展して行く。

衣服についても、嫁さんとは違う。私は貧乏性でケチケチしているので、めったに新しい洋服等を買うことはない。一旦洋服を買って毎日毎日同じ洋服を破れるまで着て過ごす。たまに新しく洋服を買ってもすぐには袖を通すことなく、しばらくは、ただ釣り下げて見て楽しんでいる。嫁さんとは言う、同じ様な洋服でも気に入ればすぐ買って、一度も袖を通すことなくタンスの奥に仕舞い。

こんな事を男は見て見ぬふりをすべきなのだが、ダメ亭主はなんとなく気になって仕方がないので、そこでつい余計な事を言うと、また騒動を起こす事になる。

私は家を造るのは亭主、その家を護るのは嫁さんと思っているが、我が家も築後40数年経っており、今ではそこら当たりには物が置かれ、バレーナーの様に爪先を立てて移動する時がある。それを言うと、こんなに小さな長屋では、物を置く場所が無いと、言っても致し方が無い愚痴を言う。貧乏長屋の嫁さんに、そいつを言われると、甲斐性無しのだめ亭主はグの音も出なくなってしまう。

この様にたえず騒動が生ずるのは、すべて

このダメ亭主に責任がある。ある有名な方の格言によると、「よき亭主は、よき妻を作る」とか「妻の全ての欠点は、亭主の責任」であると言われているので、全てはこの私の責任となる。でも、喧嘩をしながらも、我侭なこのダメ亭主を、過剰とも思われるくらいに、面倒をよく見、支え続けてくれている嫁さんには、感謝をしている。

先日、ラジオで、仲の良い夫婦は、ボケ安く、何時も争っている夫婦は、脳が活性化して、ボケにくいと話していたが、ボケ防止の為に、大いに喧嘩をするのも又良しと思っている。

## 京都の知ってるつもり

海野興一郎

### 一伏見城は、なんと三つも存在していた一

近鉄京都線に乗っていると、東の方向に伏見桃山城が見える。このお城、文化財としては城ではなく、模擬天守とされている。確か、昭和三十年代初め建設を開始したが、資金が続かず中止。京阪電鉄が買取り引継ぐが、これも途中で中止。今度は近鉄が遊園地のモニュメントにするため買取り、1964（昭和39）年漸く完成した。その後、遊園地は閉園。現在、老朽化と耐震不足で立入禁止と聞く。ここに取上げるのはこのお城ではなく、歴史上の伏見城である。なんと三つも存在していたのである。

初代目は、指月山伏見城である。豊臣秀吉は、文禄・慶長の役の講和交渉で明の使節を迎えるためと、産まれた捨丸（豊臣秀頼）に大坂城（当時は大坂と書く）を与えた後の隠居城として、1593年指月山付近（現：JR奈良線桃山駅南）に城を建設。しかし秀吉

は単なる隠居屋敷ではなく、大坂城と秀次が居る聚楽第への二元統制のため、翌1594年本格的な城郭へ改築を開始し、淀城から天守、櫓を移築。交通管制から宇治川に堤（堤防）を設け、（現）宇治橋下流から巨椋池経由、淀への川筋を（現）観月橋経由淀に迂回させ、伏見港を開港。観月橋の位置に豊後橋、対岸に支城の向島城を建設。巨椋池にも堤を設け大和街道を通した。更に秀次事件後



聚楽第から建物を移築までしたが、1596年の慶長大地震で、この伏見城は完成間際で全壊するのである。

二代目は地震二日後、秀吉が再建開始した木幡山伏見城である。すぐ近く北東1kmの木幡山（現：明治天皇陵）に、さらに本格的な城を建設。資材の大部分が再利用され、わずか三ヶ月で本丸が完成。翌1597年曲輪が十二もある大規模な城が完成するが、1598年秀吉は急死するのである。翌1599年秀頼の大坂城入城に伴い徳川家康も大坂城に移ると、伏見の大名屋敷も大坂に移り、今度は主力大名の勢力争いが始ま



り、家康が出陣中に、伏見城は1600年宇喜多秀家・小早川秀秋らによって落城、殆どが炎上してしまうのである。

三代目は、家康が同じ場所に再建した伏見城である。1600年関ヶ原の戦いで勝利した家康は、1601年伏見城と二条城の再建に着手、翌1602年完成した伏見城に入城。その後、関ヶ原の戦い直後の焼き討ちで荒廃した城下町に、大名屋敷は戻ってくるのである。1614～1615年の大坂の役後、二条城を儀式用、伏見城を住居用としていたが、1615年一国一城令を發布。1616年家康が駿府城で死後、1619年二代将軍秀忠は、二条城と伏見城の維持が困難とし、伏見城の廃城を決定。翌1620年から城割りが始まり、天守は二条城に、建物の多くは福山城、淀城に移設。そのほか豊国神社

（唐門）、西本願寺（唐門）、書院、高台寺（表門）、観月台、傘亭、時雨亭、正行寺（本堂）、二尊院（総門）、御香宮（表門）、源空寺（山門）などに移設されたと言われている。

この様に伏見城は初代築城からわずか26

年で廃城となり、政治の中心が江戸に移ると、城も大名屋敷も消えて行くが、逆に伏見の町は栄えて行くのである。それは、1594年秀吉の開港した伏見港と1614年角倉了以の開削した高瀬川が、大きな役割を果たしたからだ。当時の物流手段は舟である。物資は舟で大坂から淀川を遡り伏見港に運ばれた後、高瀬川をさらに遡り、京都に運ばれた。伏見の町は大坂・京都間の米、酒、炭、薪、材木などの物流の拠点として繁栄し、鉄道が物流の主役となる約300年後まで、港町として、酒造りの町として、発展して行ったのである。

ところで、伏見城跡には、後の明治天皇の遺言で、天皇陵が造られたようだが、大名屋敷跡は宅地や山林になったため、大名の名の町名が数多く残るだけとなったのである。

堀場韓国の富川（プーチョン）工場に2013年10月11日から3日間行ってきました。一緒に行ったのは、韓国工場に赴任経験のある5名でツアーの名称はHKLOB会です。

今回の韓国訪問の目的は、赴任経験者の多くが、帰国後韓国を訪れていないことからお会いする機会が少なくなっているために、お世話になった方々に、お会いして親睦を深める目的です。

もう一つの目的は、美味しし韓国料理を食べることです。韓国は、キムチが有名ですが、日本では、味わえない韓国料理が多く、特に韓国庶民が行く料理店が大変に美味しく、思い出の韓国料理を食べるのが目的です。韓国では、専門店となっていて、美味しいお店は行列ができるほどですが、一般の韓国ツアーでは食べられないのです。

旅行一日目は、韓国工場のメンバー全員に会えるようにと金曜日午後日本から韓国に移動してHKL工場の作業が終了する直前に入りました。そして、富川工場みんなで、夕食を食べに行って、飲んで、思い出話に大変に盛り上がりました。忘れかけていた韓国語

（ハングルマル）を思い出しながら、本当に楽しい時間となりました。（写真は工場の方々との集合写真）二日目は、自由時間で、崔副社長に韓国赴任時代の住んでいたアパート（マンション）や、旧工場のビル（レンガづくり）も見せていただき、10数年前が、昨日のように思い出されて、韓国に多くの思

い出があり、人生で良い経験をさせていただき、本当に韓国で良い友人に出会えたことの嬉しさで、胸がいっぱいになりました。夜は、富川工場の近くで一緒に働いた仲間とサンギョプサル（豚肉の焼き肉）で飲み、その後、夜の繁華街にも行き、韓国で日本の演歌をいっぱい歌って来ました。

三日目は、二日酔いもあり、ホテルでゆっくりして、チェックアウトしました。昼食はサンゲタン（鶏肉の雑炊）を食べました。昼食時と重なったのと、美味しい専門店のためになかなか料理が来ませんでした。これぞサンゲタン（参鶏湯）と味わいながら食べて仁川空港に向かい帰って来ました。

私のHKL赴任は、1996年から1999年で、今回の参加者では一番年齢が高く堀場OB会員は私だけでした。私は帰国



して10数年になりますが、一度も訪韓していませんでした。しかし、一緒に仕事したHKLの皆さんが、今も元気で働いて、暖かく迎えていただき、カムサハムニダ（感謝）でいっぱいです。短い期間の訪韓でしたが、改めてHKLの皆さんとの絆を確認できたうれしい旅行でした。

冬は曇った日が多く、空が低く感じます。午後4時ごろには日が暮れ、日の出は午前8時ごろになります。住んでいたダルムシュタットでは雪が降るのは年に数回で、降った後道路はすぐ除雪されます。車道端と歩道に残った雪は-10度前後の気温のため、融けずに蒸発し、だんだん痩せていきます。建物の断熱は良く、室内は暖かいので、外出時でも薄着の上に分厚いコートを羽織る人が多いです。憂鬱になる人が増える季節で、多くの人がひたすら春になるのを待っています。

春になるとイースターの休みがあり、夏時間になります。日照時間も長くなり、レストランやビアガーデンなどで屋外テーブルが出され、室外で飲食を楽しむ人が多くなります。冬の反動で、できるだけ太陽を浴びたがる人が多いです。仕事の後の日没までの時間を有効に使う人が多いです。4月中旬から2か月はシュパーゲル（白アスパラガス）の季節です。ドイツ人はシュパーゲルに目がありません。ゆでたポテトと盛り合わせ、好みによりシュニツェル（トンカツみたいなもの）などを添えて注文します。私も赴任後毎日食べていたため、体重が2か月で7kgぐらい減りました。

夏至の頃には日没が22時以後になります。冷房設備がないので、多くの人が屋外で過ごそうとします。ワイン祭りも各地で開かれます。ワインの収穫を始めるまでに、できるだけ在庫を減らす狙いもあるようです。グラス1杯250ccで3ユーロ前後でいろんなワインを楽しめます。ドイツで最大のブルスト（ソーセージの

こと）マルクトと呼ばれるワイン祭りでは550ccのコップで提供され、びっくりしました。ビールも多くの町で作られ、たくさん消費されています。

オクトーバフェスタは9月の最終週から2週間開かれるミュンヘンのお祭りですが、ビールを飲める楽団演奏付きのビアテントがたくさん出ます。テント内では席に座らないとビールの注文ができません。わたしも以前に3回行きましたが、最初の時は席が空かず、あきらめてホテルに戻りました。2回目は、小さいテントでたまたま席が空き、ラッキーでした。3回目は土曜日の昼前に行き、この時も予約席ばかりでしたが、予約前の時間帯であったため、席に着け、ビールを楽しむことができました。ミュンヘン以外の地域に住む人たちにとってもあこがれの的ですが、行くことができない人が多く、地域によっては地元でオクトーバーフェストを開いているところもあります。



【写真説明：クリスマスマーケット風景】  
マーケットの人混みとテント店です

10月の最終土曜日の2時に冬時間に戻ります。数年前からハロウィンパーティーを開く人たちが増えてきました。

#### ・クリスマスマーケット

11月最終週から4週間の間はクリスマスマーケットがほとんどの町で開かれます。大きな町では4週間、小さな町ではある週末だけと人口によって開かれ方が違います。多くの人たちが何度も足を運び、グリューワイン（いろんな葉草が混ざったホットワイン）を楽しみます。また、クリスマスプレゼントや小物を買う人が多いです。12月24日と25日はクリスマス休みです。多くのドイツ人は家族だけで集まりプレゼント交換をします。

#### ・大晦日の花火

ドイツに行って最初の年末のことです。大晦日にはみんなで集まってカウントダウンをして、午前0時には大きな花火が上がり、周りの人たちとキスをして祝福すると思っていたので、ドイツ人の同僚に何処へ行けばカウントダウンや花火が見られるのかと尋ねたところ、どこでも見られると言われて驚きました。31日になり、買い物に行ったら午後2時で店は閉店になりました。午後11時過ぎから家の中でも時々花火が上がる音が聞こえました。12時前か

ら近くの道路沿いで大きな花火が上がりだし、町中どこを見ても大きな花火が上がっていました。12月28日ごろから花火販売の広告があり、スーパーなどに買い物に行くと大筒の花火をたくさん売っていた記憶がありました。自分で花火を挙げてよいのは基本的に大晦日だけです。元旦に街を散歩したら歩道の横が花火の残骸で一杯でした。（1978年の元旦にロサンゼルスダウンタウンを歩いた時は道路が紙くずだらけで、なんと汚い街だと思ったのですが、アメリカでは年越しの書類は持たないと、すべて窓から放り出す慣習があるとのことでした。これを欧米の風習と思っていたのですが、ドイツでは書類屑は無く、花火の残骸だけが残っていました。）

2月になるとカーニバルが始まります。各地で仮装した人々によるたくさんのフロート（山車）と楽隊が出てパレードが行われます、このパレードは日を重ねてだんだん合流していき、最後のローゼンモンタークにはケルンやマインツに集結し、大パレードになり、カーニバルがクライマックスとなります。多数の観客が集まり、パレードを見物します。観客もみんなコスチュームをつけ、山車から投げられた飴などを拾い、お祭り騒ぎをします。

## OB会だより

### － 堀場OB会ホームページ紹介 －

堀場OB会のホームページはクラブ活動をはじめ各種の行事案内、活動報告を掲載しています。訪問件数は2万件を超え多くの会員に見ていただいていると思います。

より魅力あるホームページにするために会員からのご意見、ご提案をお寄せ下さい。

#### ◆ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

#### ◆堀場OB会メールアドレス

[horiba.ob@gmail.com](mailto:horiba.ob@gmail.com)

会員にお届けしている会報は、モノクロ版ですが、ホームページにはカラー版の会報を掲載しています。ホームページの会報閲覧は個人情報保護のため会員以外の方が閲覧出来ないようにパスワードで保護しています。閲覧は、トップページの「会報」ボタンをクリックするとパスワード入力画面が表示されますので、下記のパスワードを入力していただくと会報のリスト画面に変わります。

#### ◆会報閲覧パスワード horibaob

---

## — 新入会員紹介 —

平成24年度10月以降に入会された方9名  
を紹介します。(入会順、敬称略)

1701 笠川 重美、1703 竹内 幸雄  
1704 渡部 正資、1705 河合 治男  
1706 土肥 守、 1707 峰野 幸弘

1708 右近 寿一郎、1709 大久保義一

1710 松本 浩一

(1702 松本 勲氏は2014年1月21日死去さ  
れました。御冥福をお祈り申し上げます)

---

## — OB会入会手続きについて —

- ①OB会のホームページにある「入会登録書」をダウンロードして、
- ②「入会登録書」に必要事項を記入し、
- ③メールに添付して、sakai727@yahoo.co.jpに送るか、OB会室に郵送してください。  
送付先：〒601-8501

京都市南区吉祥院宮ノ東町2  
堀場製作所内 OB会室  
酒井俊英 宛

④幹事会が受付後、入会金、年会費納入の振込用紙をお送りします。

⑤振込用紙にて、郵便局から振込をお願いします。

OB会の会員の皆様へ

未加入の方が居らっしゃいましたら、是非入会をお薦め下さい。上記手続きでお申込み下さい。或いは幹事にご相談頂くなど、気軽にお申し越してください。

---

## — 年間行事予定 —

第18期の年間行事計画はOB会ホームページに年間行事予定が掲載されています。会員の皆様に参加されます行事予定について以下に記載します。

- ・鴨川クリーンハイク (年間4回程度)
- ・鴨川茶店 (4月5日、6日予定)
- ・一泊研修旅行 (2月21日～22日)

・春の懇親会 (4月5日)

・夏の懇親会 (8月30日)

・レジャー例会 (6月20日)

詳しくは幹事にお問い合わせ下さい。

E-mail: sakai727@yahoo.co.jp

TEL: 090-5965-0389(酒井)

---

## — 会報・ホームページへの寄稿要領 —

### ◆ホームページへの活動報告

800字(全角)以内をお願いします。同様に写真を1～2枚添付願います。活動報告は行事終了時に速やかに報告下さい。

### ◆会報への寄稿文の募集

会報に掲載する寄稿文を募集しております。1500字(全角)以内を標準とさせていただきます。また、写真を1～2枚添付してください。写真は300KB以上の解像度(640X480程度)をお願いします。

年2回の発行(1月末、7月末が発行予定で、締切りは12月末と6月末です。)に合わせてお送り下さい。

テーマは自由です。思い出、旅行記、体験談、OB会への提案、趣味、芸術、科学、技術、社会問題の意見・感想・論評など、公序良俗に反しない内容であれば歓迎します。投稿頂いた方には、図書券(1000円分)を差し上げます。

### ◆著作権の注意

- ・書籍や文献等の引用は出典を明記下さい。
- ・新聞や雑誌からの文章、写真の引用は発行者からの許可を得て下さい。

### ◆送り先

メール: sakai727@yahoo.co.jp(酒井)

郵送: 〒617-0824 長岡京市天神3-21-15  
以上、宜しくお願いします。



ー JR京都駅ビル・アート広告が

リニューアルー

企業の60周年は人間で言えば還暦。還暦とは原点回帰、本年創業60周年のHORI B Aにとって原点は木箱型PHメータ。この木箱のPHメータの精神に今一度戻って、新しい技術を見直そうといったメッセージを込めた広告になっています。京都駅をご利用の際はぜひ足を止めてご覧ください。

(JR京都駅 中央口)



ー PM2.5高性能分析装置、清華大学と開発ー

中国北京市の清華大学環境学院と「中国の環境監視システムの構築」を目的とした共同研究をはじめます。10月24日に同大学において、共同研究における基本合意の調印式を実施しました。中国では環境規制による法整備に加え、大気・水質の監視における体制整備が急務とされています。このたび、清華大学環境学院が進める環境保全に向けた研究において堀場の分析・計測技術やノウハウを用いた計測システムの実証試験を実施していく事で両者が合意しました。今後、大気中の微小粒子状物質の計測や工場排水のモニタリング



など、現地ニーズに適した環境監視システムの共同開発を行っていきます。

ー 12月3日、堀場エステック「京都福知山テクノロジーセンター」竣工式開催ー

ここは、日本や国際標準規格に準じ、制御機器のガスの流量計測が正確かどうかを判断する物差し「標準機」を開発し技術力をPRするものです。また、半導体加工の微細化に伴い、新たに開発された液体材料に対応した制御機器も対応するものです。

(敷地6,256㎡、事務棟・実験棟1,287㎡

総工費10億円 福地山市三和町)



編集後記

第18期の年次総会が無事に終わり、OB会幹事のタスキを受け継いで初年度が始まりました。心引き締まる思いです。

引継いだ幹事全員が協力一致して、活動の先を見据えながら、一歩前に、先手を打ち、失敗の無いよう、注意しながら進める所存です。更なる会員の皆様の御支援、御協力を、お願い申し上げます。

2014年はアベノミクスで景気回復が期待されますが、消費税のアップや、TTPの厳しさを考えると、難しい時代であることは変わりないようです。シニアも社会に寄与・貢献して、プラスになるよう努力する事が大切ではないでしょうか。皆様、頑張りましょう。

(酒井俊英 記)

\*\*\*\*\*  
\* 堀場製作所OB会 \*  
\* 〒601-8510 \*  
\* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 \*  
\* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 \*  
\* URL <http://wwwh5.dion.ne.jp/~ob-hor> \*  
\*\*\*\*\*